

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 江東区立八名川小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 135-0007

江東区新大橋 3-1-15

E-mail ki-mochizuki@koto-edu.jp

Website http://yanagawa-sho.koto.andteacher.jp/

幼児児童生徒数 男子 184名 女子 168名 合計 352名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「しんのある子の育成」を学校理念 (研究主題) として、ESD を人材育成方針と捉え、実践を通して、未来を創造していく児童の育成を目標とした。

具体的には「芯 (困難な課題にも立ち向かう姿勢)」、「進 (物事を変えようと行動する力)」、「心 (多様な人と共創する力)」という 3 つの「しん」を、目指す児童像、育てたい能力として掲げた。

それを実現するための手立てとして、主に総合的な学習の時間を活用し学習過程の工夫・改善を行った。特に ①学びに火を付ける場面、②調べまとめる場面、③伝え合う場面 3 つに注目し、重点的に取り組んだ。

① 「学びに火を付ける」場面

第 4 学年「水とこれからも! アクアプロジェクト」では、自分たちの暮らしがあまり水に困っていない、という児童の実態を踏まえつつ、ダム貯水量について知ることから始まった。実際の写真や算数で学習したグラフを効果的に活用し「水不足は無関係な事ではない」「自分たちにもできることがあ

るのでは」など、子どもにとっての必要感や切実感が喚起される工夫をした。また学習途中でも、児童の意見を学習問題づくりに生かしたり、発表について意見を送り合う活動を取り入れたりすることで、学びの火（意欲）の再着火を図って進めた。

② 「調べ、まとめる」場面

6年生「はばたけ未来へ！」の学習は、キャリア教育の単元として、将来の夢にしている職業を調べるだけでなく、それに向けてどのような人間でありたいかを具体的に探究していった。「個→グループ→全体→個」という学習形態を意識し、「調べる、まとめる」という活動が1人のみで完結しないようにした。

③ 「伝え合う」場面

全学年において学習発表会「八名川まつり」を視野に活動する。各学年「だれに」「どのように」伝えるのかを設定し、学年の中で話し合ったり、意見を送り合ったりして発表を磨く。同時に異年齢、異なる題材の学習発表を見合うことを通して、自分の発表をふり返ったり、来年度への発表へつなげたりする。

また「八名川まつり」の時期にあたらぬ単元でも、特に高学年において児童自身が「学習をどのようにまとめたいか」という意識をもてるよう指導している。

また、それぞれの学習をSDGsの視点から価値付け、進めていった活動が認められ、内閣府主催「第1回SDGsアワード」にて特別賞（パートナーシップ賞）を受賞した。



4年生 研究授業



6年生 研究授業



八名川まつり



SDGsアワード授賞式(首相官邸にて)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・校内LANフォルダの活用
- ・平成22年度以来の研究、実践のための資料や指導案

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

基本的には全校体制で ESD に取り組み「価値ある学びの創造」を目指している。その手段としては、特に以下のものが挙げられる。

・「ESDカレンダー」の活用

教科等を横断的・総合的に結びつけ、体験やふれ合いを取り入れ、地域に根ざした教育活動の実現を図る。

・ ESDに関する重要な行事を年間の学習課程に位置づけ

行事に向かって、児童や職員の意識が自然に高まるような工夫をする。特に2月「八名川まつり・パワーアップ交流会」では、どの学年も、自分たちの学びを全校の仲間に向かい、地域や保護者に向かい全力で発信をする。相手を替えて発信を繰り返す中で、自分の考えが整理され、深まり、実践への責任も意識されるようになる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

組織的に取り組むためには「俳句・ユネスコ部」という校内分掌、および主任の配置を行っている。本校の特色である「俳句」と「ユネスコスクール」に関する行事や業務を充実させるために、校内の先生方を巻き込みながら進めている。

継続的に取り組むためには「八名川まつり」「パワーアップ交流会」がある。年間行事に位置づけておくことで、各学年が明確な目標を持って取り組むことができ、学校行事として受け継がれ、毎年質の向上が図られている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童、保護者においては、アンケートを実施している。飽くまでも一介の公立学校として、地域に還元できる教育であるために、行事の運営や日頃の学習について多様なご意見をいただき、学校運営に活用している。児童アンケートからは特に5・6年生で「学んだことをつなぎ合わせ自分なりの考えをもつことができた」、「自分で課題を見付け解決策を考えることができた」と考える児童の増加が見られた。また、パワーアップ交流会といった情報公開の場を確保することを通して、職員が自分たちの活動を客観的にふり返り、教育的な視野を広げられるようにしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「パワーアップ交流会」は、毎年 100 名を越える参加者、発表者を迎えながら、今年度で 6 回目を実施した。会の流れに分科会を設け、参加者それぞれが実践発表に対する相互評価カードを活用した意見交流を行うことで、互いに学び合い、高め合う交流が進んでいる。それに加え、外部からいただいた知見を踏まえ、校内における研究視点の明確化も進んだ。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、月に 1～2 団体のペースで、京都市立小学校、那須塩原校長会、目白大学といった各機関からの学生・教員・職員らの視察を受け入れた。フルブライト・日米教育委員会の先生方については、児童による歓迎会や教員の交流も行った。また都政新報、ACCU 主催サステイナブルスクール研修会、ユネスコスクール全国大会といった場では、記事の掲載・資料の提供を行った。新居浜市教育委員会、近畿 ESD コンソーシアム、各地のユネスコスクール、日本 ESD 学会等にむけて、複数名の教職員が講師として派遣された。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールに限らず、国内約 200 校の小学校をはじめとした教育機関、国外約 50 校の学校と交流してきた。国内は ESD の理念や指導に関する学びを求めての来校が多い。国外は、ACCU や文部科学省の方がコーディネーターとなつてつながることができた。

また、今年度からは ACCU 主催の「サステイナブルスクール」としても活動してきたため、研修会への参加を通して、事例の情報交換だけでなく、教員同士のつながりも生まれた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクール、ESD の理念を咀嚼し、「自分の考えを発信する授業」「友達の考えを尊重する授業」「多様なアイデアが溢れ出す授業」を各学年で指導することで、子ども同士の温かい人間関係が育った。また、保護者・地域の授業参加を促進することで、学校に対する信頼が高まり、子ども達を安心して通わせられる学校となっている。子どもたちの様子からも、情報発信力、聴く力の向上が見られる。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

研究主題「しんのある子の育成」2年目として、研究成果の集約に進む。年間の研究授業および検討会の実施、これまでと変わりなく門戸を開き、多くの視点で研究をより高められるようにする。講師には成田喜一郎先生をお迎えし、教師や児童が「本質的な問い」を大事に学習活動を進め、それをふりかえるところまで見通したユネスコスクール活動を進めていきたい。

またACCUC主催「サステイナブルスクール」の1校として、同時に東京都教育委員会「持続可能な開発のための教育推進校」の1校として、研究発表会を行い情報発信する。「パワーアップ交流会」は形を変えて実践することになるが、日本のESDを推進する拠点としての役割を果たしていきたい。